

## 令和5年度事業報告

高齢者の雇用等の安定等に関する法律の施行や継続雇用による高齢者雇用・就業対策の進展、インボイス制度の導入により、新城市シルバー人材センター（以後「センター」という。）の会員状況や就業環境も急激に変化しています。こうした時代の変化に対応するため、総務省の「デジタル活用支援推進事業（地域連携型）」のスマートフォン講習による会員を巻き込んだ業務の効率化をその具体策の1つとして実施しました。

さらに、就業拡大も従来分野を維持しつつも他分野へのシフトをせざるをえない状況もあり、今後の当センターの利用動向や会員の状況変化についても注視していかねばならないと考えています。

当センターは、5カ年計画としての「第4次中期計画」を、令和5年度からスタートさせました。初年度の会員目標を650人としていましたが、年度末の会員数は615人となり、男性会員は目標値から26人、女性会員も目標値から9人下回り、計画初年度から会員数については、目標を達成できず、さらに前年度からも15人減少しました。今後の会員確保についての取組がさらに必要であると認識しています。

また、請負事業の受注件数は109件の減少となり、契約金額としては、配分金標準基準単価等の引上げの影響もあり、11,858千円増加しました。派遣事業の受注件数は3件の減少となり、契約金額は1,586千円の減となりました。この結果、令和5年度の配分金、賃金は、「第4次中期計画」の就業拡大を見込んだ目標値に達しませんでした。

今後も需要が高まる高齢者の福祉・家事援助サービスに対応した事業を積極的に展開するために、会員の増加を重点項目に置き、来年度からの「シルバーポイント制度」を積極的に展開します。さらに「女性委員会」を中心に、女性向けの各種講習会、教室、イベントを開催することで女性会員も確保して事業の拡大に取り組みます。

「第4次中期計画」の5年間の中期目標を着実に達成していくため、単年度ごとの進捗管理を行うとともに、この状況を会員、役員、職員で共有するとともに、関係者との一層の連携を深め、センター一体となつての事業運営を図ってまいります。

### 【事業実績】

年度	年度末 会員数	4月から3月末までの入退会		契約実績（単位：千円）		
		入 会	退 会	請 負	派 遣	計*
5	615	66	81	191,356	111,192	302,549
4	630	102	77	179,498	112,778	292,277
3	605	59	88	180,230	93,350	273,580
2	634	73	69	189,624	89,430	279,055
1	630	86	67	197,139	87,081	284,220

(※ 契約金額は数値を千円単位で切捨処理しています。合計に差異が生じています。)

### 中期計画の目標値と実績の比較

5年度	会員数(人)	うち 男性	うち 女性	配分金(千円)	賃金(千円)
目 標	650	436	214	154,310	91,983
実 績	615	410	205	152,209	86,506

## 1 就業機会の確保と組織的提供事業及び会員数の増加（請負、委任）

- ・新たな就労先を開拓するため、公共職業安定所や商工会、行政機関などとの連携を密にして情報収集を図った。
- ・会員への迅速で均等な就業機会を提供するため、会員への携帯ショートメッセージ送信サービスや年度の途中からのスマートフォン会員個人マイページ（Smile to Smile）を利用し、業務の効率化、省力化を図った
- ・就業機会の拡充に伴い不足する会員の確保を図るため、ボランティア活動時の「新規会員募集キャンペーン」や新たな企画による女性会員募集、山吉田地区における「地区懇談会」を行った
- ・市からの委託事業として、「介護支援ボランティア事業」・「地域型訪問サービス事業」を充実し、福祉介護支援事業の拡大及び会員の就業によらない高齢者の能力を生かした活力ある地域貢献活動の充実とともに、ゴールド会員制を併用し会員の高齢化による退会の抑制を実施した

## 2 指定管理事業

- ・令和2年度から令和6年度までの5カ年間、いきいきライフの館、鳳来高齢者生きがいセンターの指定管理者として、施設利用者に「使い勝手の良い」、「利用しやすい」施設管理を行った
- ・指定管理している施設の経年劣化に伴う老朽化対策（屋根雨漏り修繕）を、市役所と協議、調整し、計画的な施設修繕を行うとともに、施設機能の利便性の向上を図った
- ・利用対象者である会員はもとより市内の60歳以上の方への利用をスマートフォン講習等を開催し、施設の利用率を向上に努めた（18回）

## 3 有料職業紹介事業（雇用）

- ・人手不足になっている市内事業者と会員向けに、有料職業紹介事業への取り組みをPRしたが、実績にはつながらなかった

## 4 労働者派遣事業（派遣）

- ・公共職業安定所や商工会、行政機関などと連携して人手不足となっている事業所の求人情報を収集し、速やかな派遣会員の確保に努めた
- ・派遣事業を推進するため、担当職員の養成、確保を図った

## 5 知識及び技能の付与を目的とした講習会等の実施事業

- ・派遣事業の拡大に伴い、会員が就労を通して多くの方と接触する機会が増えたこともあり、個人情報保護の意識を高めるための派遣説明会を実施した
- ・草刈機やチェーンソーの正しい使用方法を学ぶ講習会を、安全対策の観点からも複数回実施した（4回）
- ・「介護支援」、「清掃」など社会生活にも密着した講習会や、「わらぞうり作り」、「剪定（初級者）」など幅広い分野の講習会、教室を開催した
- ・地域の農業を後押しする「しんしろ援農隊」や高齢会員の就業を可能とする農業分野への選択肢の一つとしての「農業同好会」の活動を支援した
- ・総務省「デジタル活用支援推進事業（地域連携型）」に応募し、採択後、市役所と連携のもと、スマートフォン講習会を本所、鳳来・作手地区で実施し、一般の高齢者を含め

会員のスマートフォン活用を推進し、センター事業の周知と業務の効率化を図った

## 6 調査研究事業

- ・センター業務に外部事業者との連携による相乗効果を図り、業務のスキルアップと職員の能力開発等を行った
- ・未就業会員を対象に「就業希望調査」を実施し、そのデータを活用し、会員が求める就業先を提供することで、会員の満足度を高め退会者の削減に努めた
- ・会員へのセンターの事業・行事参加や就業拡大等への積極的取り組みに対する「シルバーポイント制度」について、他のシルバー人材センターでの利用を参考にし、その導入を検討し、来年度6月から導入することとした

## 7 相談事業

- ・新入会員への入会研修会を開催し、研修後の個人面談で就業希望、要望を聞き取り、きめ細かな入会後の就業相談を実施した
- ・市民及び企業からの受注依頼などの問い合わせに、会員（高齢者）に安全及び適正就業の面からふさわしいかの就業可否判断により、受注断念時の民間事業者を紹介するなどの相談に応じた
- ・新たな行政サービス、行政需要（生活弱者への支援、農業支援、ふるさと納税、空き家対策、ボランティアポイント制度など）の受け皿として相談にあたった

## 8 安全・適正就業推進事業

- ・センターの安全・適正就業対策基本計画による事業計画実施事項を計画的に進め、安全目標を達成するよう努めたが、傷害事故4件と賠償事故9件の事故が発生した
- ・草刈安全講習会（3回）や会員の健康に関する講座（1回）の開催により安全・適正就業の推進を図った
- ・安全適正就業スローガンの機関紙への掲載やのぼり旗の設置、定時総会、各種会議での会員に事故防止を周知した
- ・公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会や公益社団法人愛知県シルバー人材センター連合会が開催する安全事故防止キャンペーン事業や研修会等に積極参加した

## 9 センターの活動等について周知を図る事業

- ・報道機関やケーブルテレビを活用して、センターの活動内容、状況をアピールした
- ・ホームページやInstagramを活用して、当センターの活動内容や会員の入会促進に向けた情報発信を行った
- ・市役所広報紙「ほのか」への掲載及びシルバー機関紙「頑張らまいかん」・募集チラシの新聞折込配布、市役所、公共職業安定所での配架を実施して、センターの就業紹介や入会の案内を行った
- ・11月に四年ぶりとなる「シルバーまつり」の開催や、市内13か所で180人の会員が参加した「ボランティア活動」を実施した
- ・女性委員会が、センターに興味を持っていただけるような環境づくりのために女性に特化した教室や相談会を開催し、会員確保のため広く市民に周知を行った（9回）

## 10 その他 センターの目的を達成するために必要な事業

- ・市から委託事業 介護支援ボランティア事業「しんしろ支え愛ボランティア事業」を、高齢者がボランティア活動を通じて、社会参加、地域貢献を行いながら、自らの健康増進に積極的に取り組み、生き生きとした地域社会をつくる目的として実施した

#### 11 シルバー人材センターの財政基盤の安定を図る

- ・国の政策、方針に沿った事業展開による国庫補助金の確保に努めた
- ・インボイス制度の対応や、諸経費の高騰などの変動に対応し、一般家庭を除き請負事業に係る事務費率を10%から12パーセントとし、自主財源を確保することでの財政基盤の安定を図り、市へ補助金の現状維持を求めた

#### 12 公益社団法人の適正な運営

- ・公益社団法人としての適正な事業運営を行った
- ・シルバー人材センターの設立目的に沿った公益事業を推進した
- ・会員、役員と事務局が一体となった活力のある事業運営を図った